

造影検査 説明書

造影 CT 検査を受けられる方へ

●検査説明

今回実施する検査は**造影剤という薬を注射**して行う予定です。造影剤は体内の深部を観察するものです。血管内に造影剤を投与することによって、血管や病変が分かりやすくなり、病気の状態をより正確に評価し、今後の治療に役立てます。造影剤を使用しなくても検査はできますが、より正確な診断を行うためには造影剤が必要です。但し、造影部位や検査目的によっては造影剤が必須となりますのでご了解ください。

●造影剤を使用するにあたり

造影剤は副作用の少ないものが開発され安全な薬ですが、まれに副作用が起こることがあります。以下の既往がある方は造影剤の副作用が生じる頻度が比較的高く、症状が強く出る場合もあり、造影検査を行わないことがありますので、必ず問診票の記入をお願いします。

***今までに造影剤やヨード過敏症によって具合が悪くなったことがある方**
***気管支喘息などのアレルギー歴のある方**
***他の薬剤過敏症やじん麻疹などのアレルギー歴のある方**
***重篤な腎障害のある方**

●造影 CT 検査に伴う危険性とその発生率

ヨード造影剤は、安全な薬剤とされていますが、一定の頻度で以下のような合併症・副作用を生じる危険性を含んでいます。

*軽い副作用

吐き気、かゆみ、くしゃみ、咳、咽喉頭(のど)違和感、動悸、頭痛、発疹などです。

造影剤投与直後に現れることが多いですが、検査後、約1週間の間に現れることもあります。

(通常は、治療を必要としません。) 造影剤使用例の1-2%に生じると言われています。

*重篤な副作用

呼吸困難、意識障害、血圧低下(ショック)、腎不全などです。

このような副作用は、入院の上での治療が必要で、場合によっては後遺症が残る可能性があります。

頻度は、8000～数万人に1名です。

病状・体質によっては様々な処置を行っても死亡することがあり、国内においても造影剤を用いて亡くなった方の報告もあります。

頻度は、10-40万人に1名です。

*造影剤注入時

造影剤注入時は体が熱くなることがありますが、通常は直ちに治まります。

病気によっては、造影剤を高速に注入する必要があり、この場合、血管の状態によっては血管外(皮下)に造影剤が漏出する

可能性があります。この場合、痛み、腫れ、内出血、可動制限を生じる場合があります。基本的には時間が経てば吸収され、

通常、処置は必要ありませんが、1万例に1例程度の割合で、手術が必要なことがあります。

*気管支喘息、褐色細胞腫、腎不全、多発性骨髄腫、急性膵炎、重篤な肝障害、重篤な甲状腺疾患、過去に造影剤アレルギーのあった方に関しては、一般的には造影剤は禁忌とされています。しかし、主治医が必要と判断した場合には行われることがあります。

このような方は主治医にそのことをお伝えください。

当院では造影検査中、常に患者の状態を観察しており何か異常が現れた場合には直ちに造影剤投与を中止し、

医師、看護師が適切な処置をいたします。もし、異常だと感じたらすぐにお伝えください。

その他、検査について不明な点がございましたらお気軽にご相談ください。

受付時間：月～金(8:30～17:15)、土曜日(8:30～12:30)

〒710-0826 倉敷市老松町4丁目3-38

社会医療法人全仁会 倉敷平成病院 ☎086-427-1111

放射線部受付(直通) ☎086-427-1194